

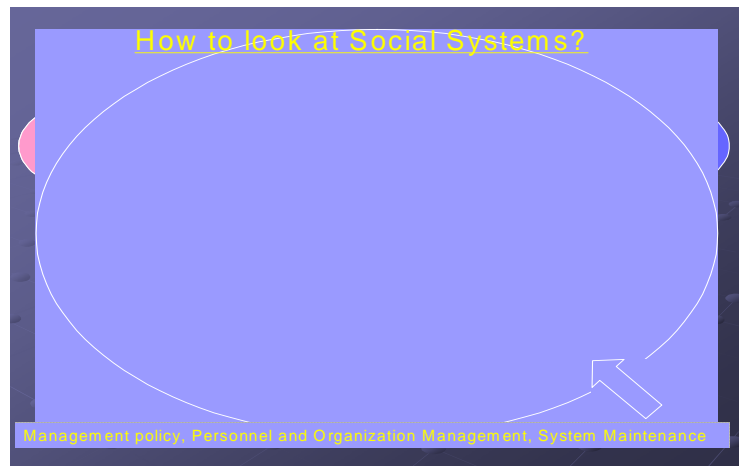
# 社会システムに関わる分析論

## - システム概念と社会科学および工学による分析論 -

那須清吾\*

**要旨：**社会システム分析は、社会環境のもと対象とする事象あるいは主体を如何に扱い、如何に資源を利用することで目標を達成するかメカニズムを解明するプロセスである。社会システムは、社会環境、対象主体・事象・資源、目標との関係が適切である限り、適切に機能する特性を有している。しかし、相互関係が継続して適切であることは、個々の要素が変化することを考えると期待することは困難であることから、常に変化に対応したシステムメンテナンス、組織・人事などの適切な運用、明快な経営方針が必要であり、社会システムのみが適切であっても機能しないことを理解するべきである。社会システムは各要素との相互関係で機能するプロセスあるいはルールで構成される。同時に、これらを決定するシステムも社会システムであり、そのためのプロセスおよびルールも存在する。従って、社会システムを決定するシステムも正しく機能することが求められるとともに、これを確認することも求められる。つまり、社会システム分析においてはこのような2層構造の社会システムを分析し、そのメカニズムを社会科学および工学により解明する必要がある。

**Abstract:** Social systems analysis consists of how to deal with the objectives such as phenomena, persons under certain social circumstances and how to utilize resources to achieve the target of the social systems. Social systems function properly as far as the relations among social circumstances, objectives, resources, and targets are appropriate. But it also has to be realized that these appropriate relations may not be able to be maintained unless the continuous maintenance and organizational and personnel management and clear management policy are performed under the change of factors related to social systems. It is not just enough that we have appropriate social systems. Social systems consist of processes and rules to deal with mutual relations among factors. They also consist of systems of processes and rules to determine the social systems. Thus systems to determine appropriate systems also have to function properly and they have to be confirmed. For the social systems analysis, we have to study on durability of the social systems, and evaluate the mechanism of the social systems from the social science point of view as well as engineering science point of view.



### 1. 社会システムの構成と静的分析

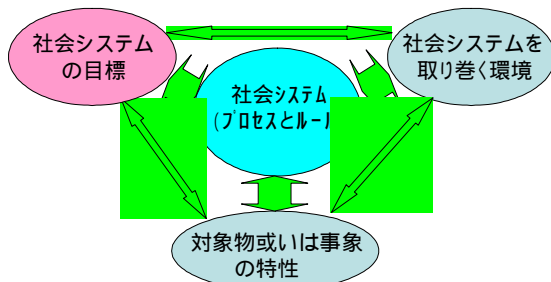
社会システムの構成を論ずる場合、以下の4つの要素について考える必要がある。

- 社会システム自体、
- 目標、
- 社会環境、
- 対象となる経営資源或いは経営対象

社会システムが適切に機能している場合、これらの要素間の関係が適切に保たれていると考えられる。この社会システムのメカニズムを分析するためには、これら4つの要素の特性・機能を確認するとともに、4つの要素の相互関係・メカニズムを確認することが求められる。全ての要素が均衡し健全な関係を維持してい

## 社会システム分析の方法

あらゆる社会システムを同様に分析する。



目標に対する各要素の合理性と相互関係合理性

なければ、社会システムは想定したメカニズムに従って成果を生むことが出来ない可能性が高いと考えられる。

目標を確認する。

目標



視点: なぜその様な目標を設定する必要があったのか (目標設定の合理性)

目標の分析

目標の設定が、社会システムの機能(プロセス、ルール或いは評価方法・基準など)に適應しているか。つまり、その目標を導ける社会システムが設計されているか。

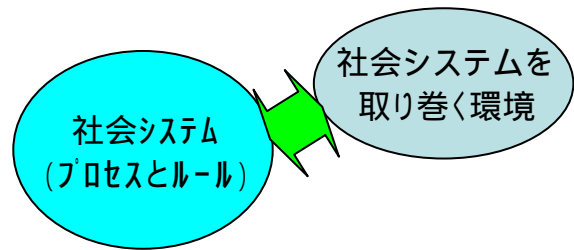
目標の設定が、社会環境が許す内容となっているか。あるいは、社会環境との関係から適切(社会的、文化的、物理的)な関係であるか。

目標の設定が、社会システムが対象としている事象・人間(経営対象)にとって適切なものであるか。あるいは、経営資源(資材・資金・人材)の制約条件あるいは特性に対して適切であるか。

社会環境を確認する。

社会環境

視点: 社会環境を十分に理解し、分析された結

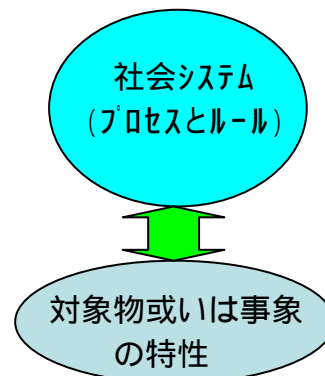


果、社会システムが設計・運営されているか。  
社会環境の分析

社会システムは、社会環境を前提とした場合、経営目標に対して適切に機能するのか。社会システムの機能に影響を与えないのか。

社会環境は、社会システムが対象としている事象・人間(経営対象)の特性を変えるなど、影響を与えていないか。また、経営資源(資材・資金・人材)の特性に影響していないか。

対象物あるいは事象を確認する。



対象

視点: 社会システムの経営対象、あるいは、社会システムの経営資源として、どの様に取り扱われているか。

対象の分析

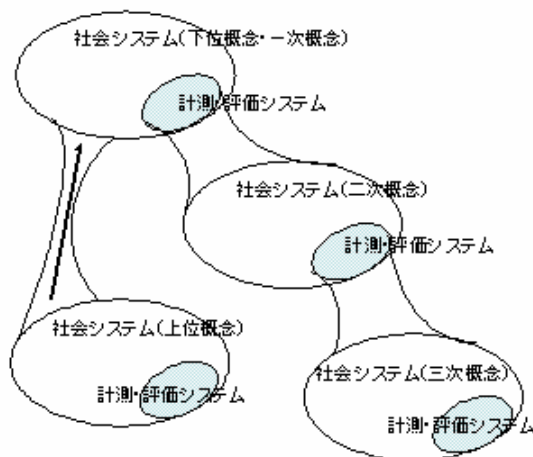
社会システムの対象は、社会システムの中でどの様に扱われているか。あるいは、その特性をどの様に評価されているか。

社会システムの経営資源は、社会システムの中でどの様に使われ、その結果どの様に評価されているか。

## 2. 社会システムの動学的分析

社会システムが社会環境、対象事象あるいは対象物、目的との相互関係を継続して適切に維持することを期待することは、個々の要素が常に変化することを考えると困難である。従って、社会システムが相互関係を維持するために常に変化するか、社会環境、対象事象あるいは対象物、目的に変化を求めることが必要となる。社会システムを経営する観点からは、これら各要素がどのように変化するかを的確に予測することも重要であり、予測結果に基づく社会システムの臨機な変更を行うことが良い経営者であると言ってよいと考える。社会システムは良い状態で維持されることで初めて機能するものであり、適切に運営されることで常に変化するものである。その為には変化に対応したシステムメンテナンス、組織・人事などの適切な運用、適切な経営理念が必要であり、社会システムのみが適切であっても機能しない場合がある。

## 3. 社会システムの多層性メカニズム



社会システムを動学的に捉えることと、社会システムの多層性は関連する。一般的に定常的に社会を動かしているシステムは、それ自体は変化を前提としていないが、関連する要素が変化することで、自ずと当該要素を認識し評価し判断する過程でその方法は変化している。従って、その変化に合わせて適切に社会システムの設計・運営等を改善しているか否かが問われる。

一方、このような社会システムの改善を適切に実施するための修正システムが求められており、いわゆる新行政経営による経営システム改善などの取り組みがその事例と考えられる。これは社会を動かしているシステムのメンテナンスを実施する上位概念の社会システムが存在することを示しているが、そのシステム構造においても同様の要素間関係分析および当該要素に対する認識・評価・判断システムに関わる分析・研究・設計・運営論が求められている。この様に、社会システムはシステムに内在する多層性と、外在する多層性が一体となって機能する構造が存在することを理解しなければならないと考える。

## 4. 社会システムの改善プロセス・メカニズム

一般的に考えられている社会システムの改善プロセスは確定的な議論が主流である。例えば、新行政経営、「Plan,Do,Check,Action」、民間経営手法などと言われる方法論は、経験的に機能することが確認されているとの説明が妥当であると考えられる。また、我々が対象とする社会システムは多様でありその構造も多様であることを考えると、必ず目的とする結果が得られるとは限らない。

多様で複雑な社会システムの改善プロセスに関わる研究は、実務的で普遍的なレベルでは殆んど実施されていない。特に、工学的な評価・計測システムに関わる分析は殆んど無いほか、社会科学との協働による分析も乏しい。様々な上位概念の社会システムによるシステム改善メカニズムについて検証することで、社会システムの多層構造および機能に関わる論理体系を確立することが求められており、その為には具体的な研究事例を蓄積することが期待されている。